

**漢方製剤の記載を含む  
診療ガイドライン 2022  
(KCPG)  
Appendix 2023 update**

**2024. 4. 15**

**日本東洋医学会 EBM 委員会  
診療ガイドライン・  
タスクフォース (CPG-TF)**

**Clinical Practice Guidelines  
Containing Kampo Products in Japan  
(KCPG)**

**KCPG2022 Appendix 2023 update**

**15 Apr. 2024**

**Task Force for  
Clinical Practice Guidelines  
(CPG-TF)  
Committee for EBM  
The Japan Society for Oriental Medicine (JSOM)**

## version の履歴

2024. 4. 15 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2022 Appendix 2023 update  
2023. 8. 3 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2022  
2022. 1. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2019 Appendix 2021 update  
2021. 3. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2019 Appendix 2020 update  
2020. 3. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2019  
2019. 3. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2016 Appendix 2018 update  
2018. 11. 30 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2016 Appendix 2017 update  
2017. 10. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2016  
2015. 11. 25 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2013 Appendix 2015 update  
2014. 12. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2013 Appendix 2014 update  
2013. 12. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2013  
2012. 12. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010 Appendix 2012 update  
2011. 10. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010 Appendix 2011 update  
2010. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010  
2009. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2009  
2008. 4. 1 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン  
(中間報告 2007) ver1.1  
2007. 6.15 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007)

なお、漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1 の内容は、以下に詳しい。

Motoo Y, Arai I, Hyodo I, Tsutani K. Current status of Kampo (Japanese herbal) medicines in Japanese clinical practice guidelines. *Complementary Therapies in Medicine* 2009; 17: 147-54.

## 本 Appendix について

日本東洋医学会 EBM 委員会 診療ガイドライン タスクフォース (CPG-TF) では、わが国の診療ガイドラインの中から、漢方製剤に関する記載を調査し、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」(KCPG) として日本東洋医学会のホームページに公開している。

本タスクフォースは、2005 年の設立当初は、診療ガイドライン タスクフォースとして単独で活動していたが、2009 年からは、漢方製剤の RCT の構造化抄録を作成するエビデンスレポート タスクフォース (ER-TF) と合体し、エビデンスレポート/診療ガイドライン タスクフォース (ER/CPG-TF) として活動してきた。しかし、漢方治療エビデンスレポートの作成と漢方製剤の記載のある診療ガイドラインの作成に関わる実務者は異なっており、2014 年からは新メンバーも加え、再度、別個の TF として活動を行うことになり、今日に至っている。

KCPG では、2022 年 3 月 31 日に調査を行い 2022 年 8 月 3 日に公開した KCPG 2022 が最新のものであったが、本 KCPG2022 Appendix 2023 update では、KCPG 2022 以後の 1 年間の動向について 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日の間に「東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース」に新たに収録された 227 件から選んだ 195 件を調査対象とし、同様に 15 件の情報を KCPG2022 Appendix 2023 update として公開するものである。本報告と、KCPG 2022 とをあわせてご覧いただくと、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」の現状がわかることになる。

2022 年 4 月 1 日- 2023 年 3 月 31 日の間に変更のあった、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」は次の通りである。

### ・新規に漢方製剤の記載が掲載された CPG 4 件

(1) 掌蹠膿疱症診療の手引き 2022、(2) 専門医のための遷延性・慢性咳嗽の診断と治療に関する指針 2021 年度版、(3) 男性の性腺機能低下症ガイドライン 2022、(4) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント 第 1 版

### ・従来は漢方製剤の記載がなかったが、CPG のバージョンアップに伴い漢方製剤が記載された CPG 3 件

(1) 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022、(2) がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズ 1 がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022 年版 (3) 間質性膀胱炎・膀胱痛症候群診療ガイドライン【2019】

### ・漢方製剤に関する記載内容が変更された CPG 8 件

(1) 過活動膀胱診療ガイドライン 第 3 版【2022】、(2) 臨床検査のガイドライン JSLM2021 検査値アプローチ/症候/疾患 (2021)、(3) 小児滲出性中耳炎診療ガイドライン 2022 版、

(4) 乳癌診療ガイドライン (1)治療編 2022 年版、(5) 膵癌診療ガイドライン 2022 年版、(6) 緑内障診療ガイドライン第 5 版【2022】、(7) 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 2022 改訂第 4 版、(8) アレルギー総合ガイドライン 2022

・従来は漢方製剤の記載があったが、CPG バージョンアップに伴い漢方製剤の記載が削除された CPG 1 件

(1)標準的神経治療 三叉神経痛 (2021)

以上のことから、本 KCPG2022 Appendix 2023update では、15 の CPG を、タイプ A: 3、タイプ B: 7、タイプ C: 5 に分類して掲載している。

なお、現在までに、KCPG に掲載された CPG 数は、次ページの Table に示すとおりである。

Table 「漢方製剤の記載を含むガイドライン (KCPG)」に掲載されたCPG数

### verison ごとの収載数

date	タイトル	調査日	東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース			その他の CPG	漢方CPG		
			収録件数	調査対象 CPG	調査対象中の漢方CPG		タイプAの件数	タイプBの件数	タイプCの件数
2024.4.15	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2022 Appendix 2023 update	2023.3.31	4207 <sup>1)</sup>	1884 <sup>1)</sup>	158 (8.4%) <sup>1)</sup>	0	38	64	56
2023.8.3	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2022	2022.3.31	3980	1722	152 (8.8%)	0	37	62	53
2022.1.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2019 Appendix 2021 update	2021.3.31	3624 <sup>1)</sup>	1867 <sup>1)</sup>	151 (8.1%) <sup>1)</sup>	0	40 <sup>1)</sup>	64 <sup>1)</sup>	47 <sup>1)</sup>
2021.3.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン(KCPG) 2019 Appendix 2020 update	2020.3.31	3291 <sup>1)</sup>	1619 <sup>1)</sup>	149 (9.2%) <sup>1)</sup>	0	41 <sup>1)</sup>	61 <sup>1)</sup>	47 <sup>1)</sup>
2020.3.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2019	2019.3.31	3000	1411	135 (9.6%)	0	40	51	44
2019.3.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2016 Appendix 2018 update	2018.3.31	2849 <sup>1)</sup>	1563 <sup>1)</sup>	132 (8.4%) <sup>1)</sup>	0	39 <sup>1)</sup>	49 <sup>1)</sup>	44 <sup>1)</sup>
2018.11.30	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2016 Appendix 2017 update	2017.3.31	2600 <sup>1)</sup>	1360 <sup>1)</sup>	118 (8.7%) <sup>1)</sup>	0	33 <sup>1)</sup>	45 <sup>1)</sup>	40 <sup>1)</sup>
2017.8.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2016	2016.3.31	2361	1158	104 (9.0%)	0	30	37	37

【2015 年以前】<sup>4)</sup>

date	タイトル	調査日	東邦大学医学メディアセンター website			その他の CPG	漢方CPG		
			収録 件数	調査対象 CPG	調査対象中の 漢方CPG		タイプAの 件数	タイプBの 件数	タイプCの 件数
2015.11.25	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2013 Appendix 2015 update	2015.3.31	1609 <sup>1)</sup>	784 <sup>1)</sup>	91 (11.6%) <sup>1)</sup>	0 <sup>3)</sup>	28 <sup>1)</sup>	28 <sup>1)</sup>	35 <sup>1)</sup>
2014.12.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2013 Appendix 2014 update	2014.3.31	1415 <sup>1)</sup>	710 <sup>1)</sup>	82 (11.5%) <sup>1)</sup>	0 <sup>3)</sup>	25 <sup>1)</sup>	24 <sup>1)</sup>	33 <sup>1)</sup>
2013.12.31	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2013	2013.3.31	1308	671	74 (11.0%)	0 <sup>3)</sup>	20	24	30
2012.12.31	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2010 Appendix 2012 update	2012.3.31	1224 <sup>1)</sup>	642 <sup>1)</sup>	70 (10.9%) <sup>1)</sup>	1 <sup>1)</sup>	18 <sup>1)</sup>	24 <sup>1)</sup>	29 <sup>1)</sup>
2011.10.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2010 Appendix 2011 update	2011.3.31	1117 <sup>1)</sup>	584 <sup>1)</sup>	58 (9.9%) <sup>1)</sup>	1 <sup>1)</sup>	11 <sup>1)</sup>	21 <sup>1)</sup>	27 <sup>1)</sup>
2010.6.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン2010	2010.3.31	1008	528	51 (9.7%)	1	8	19	25
2009.6.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン2009	2008.12.31	852	455	43 (9.5%)	1	7	16	21
2008.4.1	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1	2007.3.31	573	346	35 (10.1%)	1	6	13	17
2007.6.15	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007)	2007.3.31	570	570 <sup>2)</sup>	47 (8.2%) <sup>2)</sup>	2 <sup>1,2)</sup>	7 <sup>2)</sup>	13 <sup>2)</sup>	29 <sup>2)</sup>

タイプA: 引用論文が存在し、エビデンスと推奨のグレーディングがあり、その記載を含むもの

タイプB: 引用論文が存在するが、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

タイプC: 引用論文も存在せず、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

- 1) KCPG Appendix 2011は、2010.4.1-2011.3.31の、KCPG Appendix 2012は、2011.4.1-2012.3.31の、KCPG Appendix 2014は、2013.4.1-2014.3.31の、KCPG Appendix 2015は、2014.4.1-2015.3.31、KCPG Appendix 2017は、2016.4.1-2017.3.31、KCPG Appendix 2018は、2017.4.1-2018.3.31、KCPG Appendix 2020は、2019.4.1-2020.3.31、KCPG Appendix 2021は、2020.4.1-2021.3.31、KCPG Appendix 2023は、2022.4.1-2023.3.31の漢方が新規に掲載されたCPG、内容に変更のあった既収録CPGのみを収録しているが、ここでは、各々 2011.3.31時点、2012.3.31時点、2014.3.31時点、2015.3.31時点、2017.3.31時点、2018.3.31時点、2020.3.31時点、2021.3.31時点、2023.3.31時点での全体の状況を示している。
- 2) 「漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン(中間報告 2007)」では、東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」全てから漢方CPGを調査した。一方、2008年以後は、東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」のうち、1) 外国のCPGとその翻訳版、2) 医療倫理に関するガイドライン、3) 動物実験や治験など研究に関するガイドライン、4) その他、臨床診療を目的としないガイドライン、5) すでに改訂版が作成されているCPGの旧バージョン、6) CPGのダイジェスト版、7) 患者向けCPG、を除外したものの中から漢方CPGを調査した。そのため、2007年の報告においては、2008年以後の報告とは、調査母集団が異なる。
- 3) KCPG Appendix 2012までは、「鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症—」の書籍に付録としてつけられていたCD-ROM「アレルギー性鼻炎の科学的根拠に基づく医療 (Evidence Based Medicine) によるガイドライン策定に関する研究」は、漢方製剤に関しては、CD-ROMの内容と書籍の記載に関連性が認められず、CD-ROMの内容は、CPG作成の前に行われた別の予備的な研究であるとの解釈のもと、別のCPGとして扱っていた。しかし、本ガイドラインが、2013年版に改訂された際、CD-ROMの内容にも改訂が認められたことから、両者は一体のものとなすこととした。
- 4) 2014年4月1日から、東邦大学医学メディアセンターの「診療ガイドラインリスト」は、NPO法人医学中央雑誌刊行会の医中誌webにおいてガイドラインのタグが付けられていたものと合体され、「東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース」(<http://guideline.jamas.or.jp/>)として公開されているため、KCPG 2016より本データベースに収録されたCPGを調査対象とした。

社団法人 日本東洋医学会  
第7期 (2021.6-) EBM委員会  
診療ガイドライン・タスクフォース (CPG-TF)

班長 chair

新井一郎 日本薬科大学大学院 薬学研究科

班員 member (3名, 50音順)

北川正路 東京慈恵会医科大学 学術情報センター

末田竜一 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

平 雅代 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

アドバイザー adviser (2名)

大谷 裕 東邦大学 医学メディアセンター

津谷喜一郎 公益財団法人 生存科学研究所

EBM 委員会委員長

小暮敏明 前橋ふえきクリニック漢方内科・リウマチ科

EBM 委員会担当理事

元雄良治 社会福祉法人 恩賜財団 福井県済生会病院 内科 (担当理事)

社団法人 日本東洋医学会  
第6期 (2019.6-2021.6) EBM委員会  
診療ガイドライン・タスクフォース (CPG-TF)

班長 chair

新井一郎 日本薬科大学 薬学部漢方薬学分野

班員 member (3名, 50音順)

北川正路 東京慈恵会医科大学学術情報センター

平 雅代 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

三輪浩靖 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

アドバイザー adviser (1名)

大谷 裕 東邦大学 医学メディアセンター

津谷喜一郎 東京有明医療大学保健医療学部

EBM 委員会委員長

小暮敏明 独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院 和漢診療科

EBM 委員会担当理事

元雄良治 金沢医科大学 腫瘍内科学 (担当理事)

社団法人 日本東洋医学会  
第5期 (2015.9-2019.6) EBM委員会  
診療ガイドライン・タスクフォース (CPG-TF)

班長 chair

新井一郎 日本薬科大学 薬学部漢方薬学分野

班員 member (3名, 50音順)

北川正路 東京慈恵会医科大学学術情報センター

平 雅代 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

三成美由紀 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

アドバイザー adviser (1名)

大谷 裕 東邦大学 医学メディアセンター

EBM 委員会委員長

元雄良治 金沢医科大学 腫瘍内科学

EBM 委員会オブザーバー observer (1名)

津谷喜一郎 東京有明医療大学保健医療学部

EBM 委員会担当理事

村松慎一 自治医科大学 地域医療学センター東洋医学部門 (担当理事)